

研究会記録

発言者	発言内容
校長	本校は、子どもたちが自らの問いをもち追求するという視点から研究を進めている。昨年度は研究を進めていく中で、子どもがもつ疑問をすべて取り上げるのか、問いのもち方等いろいろな課題が出てきた。本時はその流れを踏まえ、今年度本校が進めている問いを追求する子どもたちの学ぶ姿を見ていただいた。子どもたちの学びを見取することも大切だと考えている。
授業者	これまでの学習では、言葉に関する疑問を解決したり場面分けを考えたりして、まず学習問題をつくる土台づくりをし、子どもたちが話し合うまでの同じ土俵に上げた。事例3と事例2は順序を変え、子どもたちと話し合っていた。本時は、想定通りには話し合いが進まなかった。教師側としては「時間をゆっくりと過ごす」や「充実させる」というところを取り上げられなかったので、そこが反省点である。
司会者	理想と現実がよく表れていた。子どもたちは生活経験もたくさんしてきていることを感じた。自分の思いを友達が納得できるような発言や表現に変えるのは難しいと感じた。
参観者	子どもたちが自分の言葉で意見を伝えられていた。単元の流れを教えていただきたい。
授業者	事例1～4はどれも関連しているのだが、直前に事例1をした方が子どもたちの思考に沿っていると感じ、順序を変えて進めてきた。事例2～4もたくさん情報が入っていたのだが、事例1を直前にしたこと事例1に引っ張られたのではないかと思った。子どもから「努力や嫌なことも克服しながら人生を進めていく」という意見も出てきたが「楽しいのがいい」という意見に多数が流されていたと思う。問いと子どもたちとの思いにズレがあったのではないかと思う。
参観者	子どもたち自身成長していて、主体的に学習が進んでいたと思う。今日の学習ではたくさん意見が出てきたが、今日発言できなかった子どもたちの思いや意見も聞きたかった。
参観者	子どもたちの聞き方や話し方もとてもよかった。発表時、言いたいことにつまってしまったとき、他の子どもたちがアドバイスをしたり励ましてあげたりできているところがよかった。気持ちを表示するときに、「はい」か「いいえ」で答えるだけではなく四択で意見を選択できたことがよかった。思いを発言できるようにするための手立てを教えていただきたい。
授業者	今日は、前時のふり返りで意見を書かせていたので、教師側も子ども一人一人の思いを見取りつかんでいた。5月くらいから話し合いの授業を進めてきた。最初は、本当に限られた子どもだけが話していたが、だんだん他の子も話せるようになってきた。
参観者	教師の出方がとてもよかった。出るタイミングもよかった。今回の教材を生活にどういかしていくかを考えてみてほしい。生活とは遠いような題材だが、問いとしては考えやすかった。子どもたちの意見を聞くと、一人一人の捉え方がいろいろあってよかった。思いや考えは違うのに、統一感があった。今日はなぜ、四択にされたのか教えていただきたい。
授業者	三択は真ん中に選択肢があるため避けた。話したいと感じている子どもが多い

<p>参観者</p>	<p>ため、出るタイミングをととても悩んだが、本時ではかなり我慢をした。四択なのに、真ん中という意見を出してきた子どももいておもしろかった。子どもたちの心の中が見えて、自分にとっても問いをもつことにつながり、学びが深まった。</p> <p>教材では主張と事例が混在していたが、今日の子どもたちの意見の中には事例が入っていて、子どもたちの学びが高まってきていると感じた。子どもたちの意見も他の子どもたちの意見でどんどん変わっていくのもよかった。発言していない子どもたちの思いや意見の変容はどのように見取ることができるのか。例えば、隣の友達とペアで話し合ってみたり、先生が介入していったりしてもよかったと思う。人生の生き方のような大きな軸があったと思うが、「最後にみんなに発表してもらうから」というような教師としての出方もあったのではないかと思う。</p>
<p>助言者</p>	<p>今日の大前提として、学級のみんが認められる雰囲気や子どもたちが自分の考えをもっているという根底がしっかりしていた。話し合いで大切なことは、誰かが誰かをばかにしないことや言葉をしっかり伝えられない子どもたちを温かく見守れていることである。6月時点で、子どもたちの雰囲気が出来上がっている。今日のテーマだと、人生のいろいろな哲学が出てくると思う。「自分の意見に納得してほしい」という思いをいかせる主題設定だったと思う。子どもたちなりの、人生経験や体験をしっかり伝えられていた。子どもたちが本気で意見を出し、話し合いができていたのはすごいと思った。子どもたちが「自律的に学ぶ」ということができていた。子どもたちは書いていることに戻ろうとする。また、事例に戻ろうとする。そこに内容面での高まりが見えた。技能面でも、プレゼンテーションができる子もいた。相手に譲る子がいたり、システム化がしっかりできている子がいたりした。まさに国語科で身に付けたいことだ。自らの問いを追求する姿が見られた。今日は教師から発した問いだったが、それに対して子どもが追求できていた。意見を言えるようにするために、あえて賛成意見、反対意見を言わせることも大切だ。話し合いの仕方の指導を総合や他教科で取り入れていくとよい。教師がファシリテーションをしながら、意見をまとめていくことが大切だ。大村はま先生は、停滞しているグループにも活発に意見交換できているグループにも入っていくなどの支援が大切だとおっしゃっている。いろいろ実践してみしてほしい。</p> <p>授業の中で、女の子がメモを取り始めたのだが、最後の最後に発言した。その子が一時間いろいろ考えた姿が見られてうれしかった。次の時間には、自信をもって発言できると思う。必要性のある内容をテーマにして、話し合いをしていくことが大切。意見に意見をすることで、学びは深まっていくと思う。話し合いのルールや役割の中に先生の意見を手引きに出しすぎると、そちらに流れてしまうことがある。子どもの実態は毎年違うので、マイナーチェンジを繰り返していくことが大切だ。担任だから作れるような手引きを作してほしい。子どもたちの顔を見て、特性を捉えて手引きを作してほしい。今回の教室の掲示も、手引きになる。子どもたちが授業の中で掲示を見ながら話し合いを進めていた。教室掲示の中にいろいろ仕掛けをしていくことも大切だ。ICT活用も子どもたちのふり返りに有効だから活用してほしい。子どもたちが使っている言葉がとても豊かで驚いた。語彙力は日常生活で指導していくことが大切だ。自分の考えをもつということは、かなり達成されていると思う。子どもたちの今日の心の時間は短かった。子どもたちをどう高めたいかについては、学校全体で取り組んでいってほしい。</p>

--	--